



ヒトパピローマウイルス

HPV

知っていますか？

子宮頸^{けい}がんの原因となる
誰もが感染しうる
ごくありふれたウイルスです

HPVってなに？

ヒトパピローマウイルス(HPV)は、男女ともに感染する可能性のあるウイルスです。200種類をこえる「型」(タイプ)があり¹⁾、その中のいくつかの型は子宮頸がんや尖圭コンジローマと呼ばれる性器や肛門のまわりになんできるイボの原因になります。

病気の原因となる主なHPVの種類

子宮頸がんの原因
となるHPVの代表

尖圭コンジローマの原因
となるHPVの代表



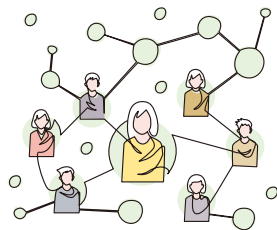
- 子宮頸がんの約65%で検出²⁾
- 20～30歳代で発見される子宮頸がんの約80～90%で検出³⁾

- 尖圭コンジローマの原因の約95%⁴⁾

誰でも感染する可能性のあるHPV

性交渉の機会が増えれば、HPVへの感染機会が増えますが⁵⁾、経験が少なければ感染しないというわけではありません。

一度でも性交渉の経験があれば、誰でもHPV感染の可能性があります。



1) Choi YJ et al. *J Gynecol Oncol*. 2016; 27: e21.

2) Sakamoto J et al. *Papillomavirus Res*. 2018; 6: 46-51.

3) Onuki M et al. *Cancer Sci*. 2009; 100: 1312-1316.

4) 厚生労働科学研究費補助金研究「尖圭コンジローマにおけるHPV-DNA検出による実態把握」小野寺昭一2011

5) Cohen PA et al. *Lancet*. 2019; 393: 169-182.

HPV感染が主な原因となる疾患①

子宮の入り口(頸部)にできる「子宮頸がん」^{けい}」⁶⁾

子宮頸がんは、結婚・出産・仕事において大切な時期である、20歳代から罹る女性が増え始め、40歳代でピークを迎えます。小さなお子さんを残して亡くなる方もいるため「マザーキラー」と呼ばれることもあります。がんになる前の状態や初期のがんでも、子宮を部分的に切り取る手術を行うことがあり、早産につながる可能性があります。

子宮頸がんの手術や治療の内容によっては、後遺症が起こり、休業・離職など、就業に影響を及ぼすこともあります。

しかし、早期に発見できれば、子宮を守ることができる可能性がある病気です。



HPV感染が主な原因となる疾患②

性器にできるイボ「尖圭コンジローマ」^{せん けい}」⁷⁾

HPV感染から尖圭コンジローマの発症には数週間～3ヵ月程度かかり、痛みなどの症状はほとんどありません。

妊娠中に発症した場合は母子感染の可能性があります。感染を予防するために、出産までに治療を終了するべきとされています。

また、患者さんのパートナーもHPVに感染している可能性があるため、パートナーの方も専門医を受診し、症状があれば治療をすることが重要です。



20歳代女性



30歳代女性



30歳代男性

尾上泰彦, アトラスでみる外陰部疾患 プライベートパーツの診かた, Gakken, 2010. より転載
プライベートケアクリニック東京 尾上 泰彦 先生

6) 国立がん研究センターがん情報サービス 子宮頸がん

https://ganjoho.jp/public/cancer/cervix_uteri/index.html (Accessed Nov. 6, 2024)

7) 国立感染症研究所 尖圭コンジローマとは

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/428-condyloma-intro.html> (Accessed Nov. 6, 2024)

子宮頸がん検診って？

子宮頸がん検診とは、子宮頸がんになる前の状態(前がん病変)やがん細胞を早期に発見する検査です。早期治療へつなげるためには定期的な検診が重要です。



検診の種類⁸⁾

子宮頸がん検診には、細胞診検査とHPV検査の2種類があります。どちらも子宮の入り口部分の表面をやわらかいヘラやブラシで軽くこする検査で、1～2分程度で済みます。

●細胞診検査

前がん病変(がんになる前の状態)やがん細胞があるかどうかを確認することができます。

●HPV検査

子宮頸がんの主な原因となるウイルスを検出することができます。ただし、前がん病変やがん細胞の有無についてはわかりません。

細胞診検査とHPV検査は両方同時に実施できる場合があります。

結果をうけとったら？

異常が見つかった場合は、必ず精密検査を受けましょう。異常がない場合でも、定期的な検診が大切です。

HPV感染予防のためのHPVワクチンは、細胞診／HPV検査の結果を問わず接種が可能です⁹⁾。

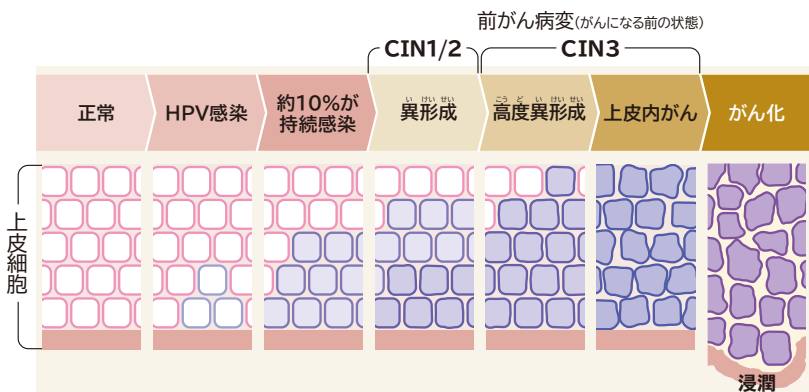
8) 日本産科婦人科学会 子宮頸がんとHPVワクチンに関する正しい理解のために
「Part 4 HPV検査を含めた子宮頸がん検診について」

<https://www.jsog.or.jp/citizen/5765/> (Accessed Nov. 6, 2024)

9) 日本産科婦人科学会／日本産婦人科医会 編集・監修 産婦人科診療ガイドライン 婦人科外来編, 2023; 52-54.

子宮頸がんが進行するしくみ¹⁰⁾

子宮頸がん^{けい}に罹^{かか}る主なきっかけは、臓器の表面をおおっている上皮にある細胞（上皮細胞）へのHPV感染です。ウイルスのほとんどは自然に排出されますが、細胞に長くともまるとずっと感染したままになり、異常な細胞が増えていきます。異常な細胞が上皮の2/3以上になると「高度異形成^{こうど いせい せい}（CIN3）」、上皮すべてを埋めつくすと「上皮内がん（CIN3）」と呼ばれます。これは、子宮頸がんの前がん病変^{けい}（がんの前の段階）で、治療が必要な状態です。



ワクチン
によって
感染そのもの
を防ぐ

検診による早期発見

1次予防

2次予防

以下参考に作図：

- ・ 笹川 寿之 臨床と微生物 2009; 36: 55-62.
- ・ 病気がみえる Vol.9 婦人科・乳腺外科 141.
- ・ 日本婦人科腫瘍学会. 患者さんとご家族のための子宮頸がん・子宮体がん・卵巣がん 治療ガイドライン第3版(2023年)

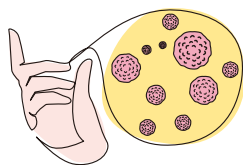
10) 日本婦人科腫瘍学会 編: 患者さんとご家族のための子宮頸がん・子宮体がん・卵巣がん 治療ガイドライン 2023年 第3版 金原出版株式会社 14-20.

コンドームを使用してもHPV感染は防ぎきれません

HPVは主に性交渉を介して男女に感染します。^{がい いん ぶ}外陰部や肛門など、コンドームの使用では防ぎきれないところや、手にもHPVは存在します¹¹⁾。

感染予防にはHPVワクチン接種が大切です※。

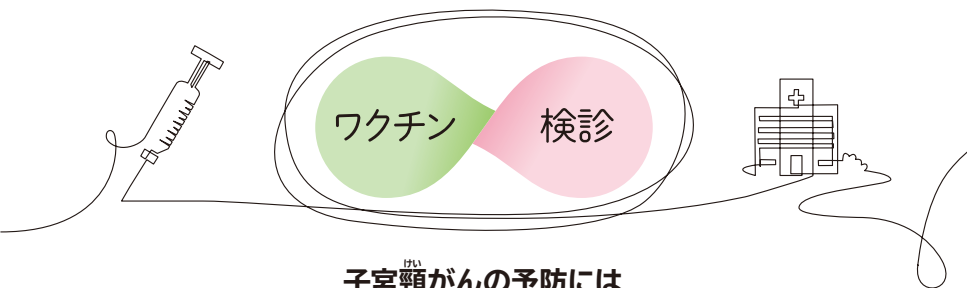
※:HPVワクチンで、HPV感染による子宮頸がん・尖圭コンジローマを100%予防できるわけではありません。



私でもHPVワクチンを接種できるの？

公費助成の対象年齢を過ぎている、任意接種としてHPVワクチンを接種することは可能です。ただし、基本的に任意接種の費用は全額自己負担となります。詳しくは医師にご相談ください。

11) Winer RL et al. *Am J Epidemiol.* 2003; 157: 218-226.



子宮頸がんの予防には
ワクチンと定期的な検診の2つが大切です

注)子宮頸がんはワクチンと検診で100%予防できるわけではありません

HPVやワクチン接種、検診について
詳しく知りたい方は医師にご相談ください